

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	四国中央市水産業再生委員会
代表者名	井原 治明

再生委員会の 構成員	寒川漁業協同組合、三島漁業協同組合、川之江漁業協同組合 四国中央市
オブザーバー	愛媛県東予地方局水産課 愛媛県漁業協同組合連合会東予支部

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及 び漁業の種類	愛媛県四国中央市地区 瀬戸内海機船船びき網漁業(7経営体) 小型機船底びき網漁業(42名)、さわら流し網漁業(24名) あじ流し網漁業(3名)、きす、かます刺し網漁業(18名) かれい、こち沖建網漁業(14名)、さより機船船びき網漁業(9名) 漁業者59名(3月11日時点)、のべ人数117名及び経営体
-----------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当海域は、瀬戸内海の燧灘南東部に位置し、遠浅の地形を活かし、小型機船底びき網漁業が盛んな地域である。年間を通じて、多種の魚介類が漁獲できる漁場であり、底びき網漁業の他にも、刺網漁業、流し網漁業、カゴ漁業など、同一の漁船を用いて、多様な漁法を用いた漁業経営を行っている。また、初夏より瀬戸内海機船船びき網漁業(パッチ網)によるカタクチイワシ漁が始まり、各経営体毎に構えた加工場において煮干しイリコの生産が盛んに行われている。しかし、近年の魚価安、燃油の高騰、水産資源の減少、天候変化による漁期の異変、漁業者の高齢化及び後継者不足などにより、水揚げ高及び漁業所得ともに減少傾向である。

流通形態については、パッチ網で漁獲されるカタクチイワシは、煮干しイリコに加工され、県漁連の主催する入札における出荷が行われ、パッチ網以外の漁獲物については、産地仲買人を通さない直接出荷を行っている。しかし、漁業者毎に漁獲物の取扱いや出荷方法が異なり、集出荷方法の改善が必要となっている。

また、当地域は水産加工施設が少なく、水産加工業が脆弱であるため、豊漁時などエソ・イシモチ・ハモ・マダイ等の魚種を加工に回す場合、他地域の水産加工業者に依存するしかなく、それに伴い、運搬コスト、資材コスト、鮮度低下が発生し、漁業所得向上の妨げとなっている。

さらに、水産資源の回復を目的に、ヒラメ、キジハタ、クルマエビ等の種苗放流を実施しているが、環境の変化や餌料生物や稚魚の保育場として機能するアマモ場の減少などが見られ、漁獲量の増大につながっていない。

## (2) その他の関連する現状等

四国中央市は、瀬戸内海工業地帯に属し、紙産業が主幹産業であり、その生産量は全国でも有数である。それらを背景に、商圏人口は10万人規模となり、水産物の潜在的消費量は十分に有するが、地元鮮魚店の衰退及び多数の大型量販店の出店により、地産品の販売力の減少及び消費者への認知度が低下しており、流通体制の強化及び見直し、消費者への認知度向上が課題となっている。

当地域では、ほとんどの漁業者が、主にパッチ網や小型底びき網漁業を営んでおり、流し網や建網など他の漁業を兼業している。

## 3 活性化の取組方針

## (1) 基本方針

漁業者間で異なる漁獲物の取扱いや出荷方法、地産品の販売力の減少と認知度低下、加工業の脆弱さに対する対策として以下の取組を行う。

- ・取引情報等の共有化による出荷方法及び品質の検討
- ・情報発信
- ・加工施設の開設

また、種苗放流による資源回復の効果を高めるため、次の取組みを行う。

- ・放流種苗後の生息海域の保護
- ・アマモ場造成

さらに、漁業コスト削減のため、次の取組みを行う。

- ・省燃油活動や低燃費航行によるコスト削減

なお、これらの取組みのうち、前半の漁業収入の増加を図る取組みについては、主要漁業であるパッチ網と小型底びき網漁業を対象に行い、漁業コストの削減を図る取組みについては、全漁業種類を対象に行う。

これらの対策により、漁業所得の向上を図るとともに、水産業の活性化と地域の魅力を向上させ、

## (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

愛媛県漁業調整規則により、採捕できる水産生物の体長制限や採捕禁止期間を設けている。また、瀬戸内海機船船びき網漁業およびさわら流し網漁業においては、休漁に関する漁獲管理措置を設け、漁獲努力量の削減措置を取っている。

さらに、持続的養殖生産確保法第4条に基づき、漁場改善計画の推進によるノリ養殖漁場環境の保全を実施し、ノリの安定的・持続的な生産に取り組んでいる。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

## (3) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(平成27年度)

漁業収入向上のための取組

●以下の取組にて、漁業収入を基準年比で4.2%向上させる。

### ① 取引情報等の共有化による出荷方法及び品質の改善

各漁協の販売担当が連絡会を設置して、取引先が望む数量やサイズ等の仕分け方法、他地区の水揚げ、消費市場の取引状況および水産加工業者の需要実態や、各漁業者が独自に行っている漁獲物の保存・保管方法等の情報を収集・集約する。各々の漁業者が持つ効果的な鮮度保持や出荷方法の知見・習慣を全漁業者にフィードバックし、漁業者が取引先の望む形態で出荷を実践することにより、取扱量や単価の増大を図る。

#### 1. 対象種 カタクチイワシ

(1) 対象漁業種類 瀬戸内海機船船びき網漁業

(2) 現状 カタクチイワシは鮮度劣化の早い魚であり、保存状態の違いにより、煮干し加工を行うと、状態の良好なものは背中が黒色となるが、状態の悪いものは、背中の色が白化、体躯の曲折が起こり、単価安となっている。現状では、各漁業者によって、網入れの操業時間及び漁獲時から加工場までの運搬時における魚槽内の氷の量の違いにより、漁獲されたカタクチイワシの鮮度及び単価に相違が生じている。

(3) 取組み 全漁業者が最適な操業時間及び氷の使用量を協議し、入札において同等品の単価に差異がみられた場合は、各漁船の船長同士による情報交換を行い、品質を向上させ、単価の向上を図る。

#### 2. 対象種 アカシタビラメ

(1) 対象漁業種類 小型機船底びき網漁業

(2) 現状 アカシタビラメは、消費地市場が望むサイズ、1箱当りの重量に違いがあるものの、各地域の特性に応じた体制は取られておらず、一律的な出荷形態となっている。

(3) 取組み 全漁業者を対象に、単価の差異、高単価となる条件、最適な出荷体制を連絡会から周知することにより単価の向上を図る。

#### 3. 対象種 クロダイ・スズキ

(1) 対象漁業種類 小型機船底びき網漁業

(2) 現状 クロダイとスズキは、従来、商品価値が高くない魚として認識されており、鮮度保持の取組みが十分に行われてこなかった。このため、現在行われている水揚げ後の氷締めでは、鮮度劣化を抑えることができず、臭気や硬化が発生するため、単価安となっている。

	<p>(3)取組み 全漁業者が、効果的に鮮度を保持する活け締め手法を検討し、その効果的な活け締め手法を共有・徹底することにより、単価の向上を図る。</p> <p>4. 対象種 タチウオ</p> <p>(1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業</p> <p>(2)現状 タチウオは、漁獲後に体表の銀箔が剥離しやすく、取り扱いによって見栄えの悪くなったものは、単価が大幅に下落する。</p> <p>(3)取組み 保冷箱への収容方法や漁獲物と氷の密度を検討し、鮮度と見栄えを両立した取り扱いを実践することにより、単価の向上を図る。</p> <p>② 情報発信 地域水産物の認知度向上、取引材料の提供を目的に、地域内の情報を取り入れたブログ等SNSを用いた情報発信を行う。1年目は、再生委員会事務局員が、漁業者、消費者、取引業者に聞き取りを行い、それぞれが知りたい情報を収集する。</p> <p>③ 種苗放流後の生息海域の保護 現在、各漁協において種苗放流を実施しているが、稚魚からの成育過程での保護を目的とした、海岸線より沖合2キロまでの海域における種苗放流後の1か月間の操業自粛を行い、資源の回復を図る。</p> <p>④ 資源回復を目的としたアマモ場造成 アマモ場造成により産卵及び稚魚育成の場所を確保し資源を回復させることを目的に会員漁業者を対象にアマモ場造成を行っている先進地漁場への研修を実施し、藻場造成の意義・効果、手法を学習する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>●以下の取組にて、漁業コストを基準年比で5%削減させる。 全漁業者は、漁業燃油の削減を主眼とし船底清掃の実施による、航行時の抵抗削減、減速航行による低燃費化、係留中の機関停止等、不要不急の燃油使用の削減に取り組む。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築等事業 省燃油活動推進事業</p>

2年目(平成28年度)

漁業収入向上のための取組	<p>●以下の取組にて、漁業収入を基準年比で4.9%向上させる。</p> <p>① 取引情報等の共有化による出荷方法及び品質の改善</p> <p>1. 対象種 カタクチイワシ</p> <p>(1)対象漁業種類 瀬戸内海機船船びき網漁業</p> <p>(2)現状 当委員会の海域で漁獲されるカタクチイワシは、幼魚から成魚まで、出荷サイズとして6段階に分類され、入札が行われているが、自動選別機による選別ではサイズ違いの混入が発生している。</p> <p>(3)取組み 前年度の取組みに加え、各漁業者は、目視により混入を極力防止するとともに、混入が疑われるものに関しては別ロットとし、商品の均一化を徹底することにより、競合他場より魅力的な市場を形成することで、単価の向上を図る。</p> <p>2. 対象種 アカシタピラメ</p> <p>(1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業</p> <p>(2)取組み 前年度の取組みを継続するとともに、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うことにより、単価の向上を図る。</p> <p>3. 対象種 クロダイ・スズキ</p> <p>(1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業</p> <p>(2)取組み 前年度の取組みを継続するとともに、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うとともに、上記の情報を元に、全漁業者が活け締めの手法の改善を図り、単価の向上を図る。</p>
--------------	---

	<p>4. 対象種 タチウオ</p> <p>(1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業</p> <p>(2)取組み 前年度の取組みを継続するとともに、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、漁獲物の取り扱いの改善点を洗い出し、全漁業者が改善を図ることにより、単価の向上を図る。</p> <p>② 情報発信 再生委員会事務局員は、前年度に収集した意見を元にブログ等のSNSを開設し、情報発信を行う。 想定されるコンテンツ</p> <p>(1)漁業者からの情報 漁法、漁業者、鮮度保持に向けた取組み等の紹介</p> <p>(2)消費者が希望する情報 現在、旬の魚介類や地域の伝統料理の調理法</p> <p>(3)取引業者が希望する情報 魚介類の水揚げ状況、相場</p> <p>③ 種苗放流後の生息海域の保護 前年度における操業自粛措置の効果を踏まえ、自粛措置を改善し実行する。</p> <p>④ 資源回復を目的としたアマモ場造成 会員漁業者が、地域内におけるアマモの生育状況を調査するとともにアマモ場造成候補地の適地調査を行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>●以下の取組にて、漁業コストを基準年比で5%削減させる。 全漁業者は、漁業燃油の削減を主眼とし船底清掃の実施による、航行時の抵抗削減、減速航行による低燃費化、係留中の機関停止等、不要不急の燃油使用の削減に取り組む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティーネット構築等事業</p>

3年目(平成29年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>●以下の取組にて、漁業収入を基準年比で4.9%向上させる。</p> <p>① 取引情報等の共有化による出荷方法及び品質の改善</p> <p>1. 対象種 カタクチイワシ</p> <p>(1)対象漁業種類 瀬戸内海機船船びき網漁業</p> <p>(3)取組み 前年度までの取組みを引続き実践する。また、漁業者と仲買人が出席する販売会議にて改善点を協議するとともに、毎入札時において、入札主催者である県漁連を通じて、評価及び要望を収集し、随時、改善を行うことにより単価の向上を目指す。</p> <p>2. 対象種 アカシタビラメ</p> <p>(1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業</p> <p>(2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うことにより、単価の向上を図る。</p> <p>3. 対象種 クロダイ・スズキ</p> <p>(1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業</p> <p>(2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うとともに、上記の情報を元に、全漁業者が活け締めの手法の改善を図り、単価の向上を図る。</p> <p>4. 対象種 タチウオ</p> <p>(1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業</p> <p>(2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、漁獲物の取り扱いの改善点を洗い出し、全漁業者が改善を図ることにより、単価の向上を図る。</p>
---------------------	---

	<p>② 情報発信 再生委員会事務局員は、前年同様にブログ等のSNSにて情報発信を行い、取引の増大、地域水産物の認知度向上を目指す。</p> <p>③ 種苗放流後の生息海域の保護 前年度における操業自粛措置の効果を踏まえ、自粛措置を改善し実行する。</p> <p>④ 資源回復を目的としたアマモ場造成 前年度の調査により選定された場所において、会員漁業者がアマモの播種、定期的なモニタリングを行い、定着状況を確認する。</p> <p>⑤加工施設の開設 従来、他地域に依存していた多獲性魚種について、自前の加工場の開設によって付加価値を向上させ、漁業収入の向上を図る。 当該年度においては、設立趣旨、加工場設置場所、加工品の対象魚種の選定及び、事業資金の出資割合等の基本方針の検討を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>●以下の取組にて、漁業コストを基準年比で5%削減させる。 全漁業者は、漁業燃油の削減を主眼とし船底清掃の実施による、航行時の抵抗削減、減速航行による低燃費化、係留中の機関停止等、不要不急の燃油使用の削減に取り組む。</p>
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築等事業

#### 4年目(平成30年度)

漁業収入向上のための取組	<p>●以下の取組にて、漁業収入を基準年比で4.9%向上させる。</p> <p>① 取引情報等の共有化による出荷方法及び品質の改善</p> <p>1. 対象種 カタクチイワシ (1)対象漁業種類 瀬戸内海機船船びき網漁業 (3)取組み 前年度までの取組みを引続き実践する。また、漁業者と仲買人が出席する販売会議にて改善点を協議するとともに、毎入札時において、入札主催者である県漁連を通じて、評価及び要望を収集し、随時、改善を行うことにより単価の向上を目指す。</p> <p>2. 対象種 アカシタビラメ (1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業 (2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うことにより、単価の向上を図る。</p> <p>3. 対象種 クロダイ・スズキ (1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業 (2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うとともに、上記の情報を元に、全漁業者が活け締めの手法の改善を図り、単価の向上を図る。</p> <p>4. 対象種 タチウオ (1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業 (2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、漁獲物の取り扱いの改善点を洗い出し、全漁業者が改善を図ることにより、単価の向上を図る。</p> <p>② 情報発信 再生委員会事務局員は、前年同様にブログ等のSNSにて情報発信を行い、取引の増大、地域水産物の認知度向上を目指す。また、ブログから連動した形にて、既存の販売チャンネル(楽天・フーズインフォーマット・トルトコミテ等)を活用した販路拡大を図る。</p> <p>③ 種苗放流後の生息海域の保護 前年度における操業自粛措置の効果を踏まえ、自粛措置を改善し実行する。</p> <p>④ 資源回復を目的としたアマモ場造成 会員漁業者は、前年度実施した藻場造成の効果判定を行うとともに、播種、その後のモニタリングを継続して実施する。</p>
--------------	--

	<p>⑤加工施設の開設 前年度において検討を行った基本方針に基づき、担当者の選任、加工場の設置費用、機械及び資材購入費用、販売手法(市場出荷、商社、ネット等)、加工の種類(すり身やフィーレ)の検討などのフィージビリティスタディを行い、事業化に着手する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>●以下の取組にて、漁業コストを基準年比で5%削減させる。 全漁業者は、漁業燃油の削減を主眼とし船底清掃の実施による、航行時の抵抗削減、減速航行による低燃費化、係留中の機関停止等、不要不急の燃油使用の削減に取り組む。</p>
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築等事業

5年目(平成31年度)

漁業収入向上のための取組	<p>●以下の取組にて、漁業収入を基準年比で5.0%向上させる。</p> <p>①取引情報等の共有化による出荷方法及び品質の改善</p> <p>1. 対象種 カタクチイワシ (1)対象漁業種類 瀬戸内海機船船びき網漁業 (3)取組み 前年度までの取組みを引続き実践する。また、漁業者と仲買人が出席する販売会議にて改善点を協議するとともに、毎入札時において、入札主催者である県漁連を通じて、評価及び要望を収集し、随時、改善を行うことにより単価の向上を目指す。</p> <p>2. 対象種 アカシタビラメ (1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業 (2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うことにより、単価の向上を図る。</p> <p>3. 対象種 クロダイ・スズキ (1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業 (2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、随時、適切な出荷体制の構築を行うとともに、上記の情報を元に、全漁業者が活け締めの手法の改善を図り、単価の向上を図る。</p> <p>4. 対象種 タチウオ (1)対象漁業種類 小型機船底びき網漁業 (2)取組み 前年度までの取組みに加え、連絡会の担当者は、消費地市場の担当者と連絡を密にとり、出荷品の評価、需要及び要望等を収集し、漁獲物の取り扱いの改善点を洗い出し、全漁業者が改善を図ることにより、単価の向上を図る。</p> <p>②情報発信 再生委員会事務局員は、前年同様にブログ等のSNSにて情報発信を行い、取引の増大、地域水産物の認知度向上を目指す。また、前年度から開始したECビジネスをさらに拡大させ、漁業者と再生委員会が協力し、販路拡大に取り組む。</p> <p>③種苗放流後の生息海域の保護 前年度における操業自粛措置の効果を踏まえ、自粛措置を改善し実行する。</p> <p>④資源回復を目的としたアマモ場造成 会員漁業者は、前年度実施した藻場造成の効果判定を行うとともに、播種、その後のモニタリングを継続して実施する。</p> <p>⑤加工施設の開設 前年度までの取組みを踏まえて、加工施設を開設する。低価格な魚種を加工施設で加工することにより生じた付加価値を漁業者に還元する。また、「②情報発信」とも連動して、販路拡大を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>●以下の取組にて、漁業コストを基準年比で5%削減させる。 全漁業者は、漁業燃油の削減を主眼とし船底清掃の実施による、航行時の抵抗削減、減速航行による低燃費化、係留中の機関停止等、不要不急の燃油使用の削減に取り組む。</p>

活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築等事業 産地水産業強化支援事業
-----------	-----------------------------------

※「活用する支援措置等」欄に記載するものは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

--

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の %向上	基準年	平成 年	から	年	: 漁業生産額	千円
	目標年	平成 年			: 漁業生産額	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット構築等事業	燃油高等の影響緩和が図られることで、浜の活力再生プランの効果が高められる。
省燃油活動推進事業	消費燃油の削減を実施することで、浜の活力再生プランの効果が高められる。
産地水産業強化支援事業	低価格な魚種を加工することにより漁業収入の増加が図られる。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策を確約するものではない。